編　集　後　記

神戸市立病院紀要第56巻（平成29年度）をお届けします。

今回の紀要の巻頭は、気管挿管に関する最近の文献（実に65編！）のエッセンスを簡潔明瞭に総説したもので、I. 集中管理室における気管挿管の危険性、II. 気管挿管の酸素化、III. ビデオ硬性挿管喉頭鏡（ビデオ喉頭鏡）、IV. 上気道エコー、最後にV. 麻酔中の困難気道管理ガイドラインという内容であり、これを熟読すれば気管挿管をめぐる世界の現状と動向が一目瞭然という読み応えのある内容でした。気道トラブルを最小限にすべく“cannot intubate and cannot oxygenate”(CICO)という最悪のシナリオを想定し、これを回避するために考案された様々な対策、対処法を理解することは、われわれ医療者にとって大変重要なことだと改めて感じ入りました。

医療研究報告では３年間にわたるダナン産婦人科小児科病棟における『体系的な新人教育プログラムの構築』プロジェクト終了２年後の変化を現地調査した内容です。ほとんどの勤務を神戸市内の医療現場で過ごしているわれわれにとって、実際に海外に赴き発展途上の医療機関の現場で医療活動、教育を支援するプロジェクトに携わるということは希有なチャンスであり、その報告は非常に興味深いものです。今回は終了２年後に現地調査したわけですが、これは農地を耕し、種をまいたあと、時を経て苗がどのように成長しているかを観察するという行為に似て、とてもわくわくするとともにドキドキする作業だと思われます。教育というきわめて高度な人間同士の知的活動は、継承し、変遷を繰り返しつつ熟成、進化させていくことで、社会に進歩と福音をもたらします。遠くはなれたベトナムの医療の現場で、現地の医療人が『教える』姿勢から『育てる』姿勢に変化しつつあることが感じられたという著者の言葉に深い感銘を覚えました。プロジェクトの第一報は紀要54巻に掲載していますのでご参照ください。

投稿いただいた様々な職種の方々、編集会議の開催や各病院の業績集計など編集業務を行っていただいた事務局の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、ご多忙と思いますが、職員の皆様の紀要への更なる活発な投稿をよろしくお願いいたします。

さて、平成29年12月より地方独立行政法人神戸市民病院機構に神戸アイセンター病院が加わり市民病院機構は４病院体制となりました。

紀要がこれまで以上に市民病院群の学術的な交流の場となり、病院間や職種の垣根を超えて日頃の研究成果や課題を共有できることを祈念いたします。

神戸市立医療センター西市民病院
院長代行　中　村　一　郎